

医療画像展

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会

副会長 橋本里見



平成24年4月1日に公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（以下、本会という）となり半年が過ぎようとしている。事業活動については、平成24年度の事業計画

が昨年度の予算総会で承認された計画通りに進み、これと言って大きな公益事業を推し進めているわけではないが、来年度はより充実した企画も検討していかなければならないと思う。

公益事業として埼玉県に登録しているのは、学術セミナーの開催事業、放射線情報提供事業、そして県民への知識普及啓発事業の3項目である。この3項目の中で県民への知識普及啓発事業について述べる。知識普及啓発事業の代表的な事業は医療画像展である。現在、医療画像展は支部（地区会）ごとに開催し、少額であるが予算を本会から援助する事で協力をしている。開催内容も支部独自で各支部の特色を生かした企画を立て開催しており、支部役員と会員の協力により毎年継続開催してきている。

では医療画像展はいつ頃始まったのか。それは、過去の会誌「埼玉県放射線技師会会誌」第73号に開催報告が掲載されている。記念すべき第1回は「あなたのための放射線展」と題して、浦和コルソで開催している。他団体との合同ではなく単独開催、講演会有り、日程は昭和61年12月11日から16日までの6日間継続開催であった。それにしても、6日間連続開催は現在では考えられない。役員、会員、賛助会員協力の上での開催だったのだろう。この昭和61年はおそらく社団法人化の準備をしていたこともあり綿密な打ち合わせを経ての開催と考えられる。そして昭和62年11月には社団法人化が埼玉県から許可されている。つまり公益法人化を目指す上での企画であり、是が非でも開催したいとの執行部の考えがあったのかもしれない。

ない。やはり当時の本会役員の先輩方も公益法人としては、会員だけではなく、県民にも目を向けた事業の開催が必須となるとの思いからの放射線展開催であったと推察する。

医療画像展は、この第1回から現在まで継続されてきており、素晴らしい実績であったと思うが、当時の担当役員から苦労話が掲載されている。来場者数を見ると、1日目から順に138人、216人、263人、729人、201人、150人で合計1697人が来場している。特に日曜日の開催では、729人が来場しているので大成功と言っても良いと思うが、なかなかすんなりとブースに入ってもらえず、集客に苦労したと報告している。

話は少しずれるが、2年ほど前から開催している「放射線被ばく相談窓口」の相談者は期待したよりも少ないと報告されている。しかし、期待を裏切る結果となった事業は創意工夫により、また違う結果を生み出す企画に変化していく可能性がある。新しい企画にチャレンジする精神は常に持ちたい。

近年の医療画像展は、各支部が地方自治体、公益法人、任意団体等の「健康まつり」に参画する形式で開催されている事が多い。つまり広報は本会だけで行うのではなく、参加団体全てで行うため、どこの支部開催でも来場者数は多い。特に骨密度測定を行う場合は、予約していただく場合もあると聞く。いずれにしても、医療画像展は毎年盛況であるという報告を聞き喜ばしく思っている。

この事業は今後重要な位置を占めるため、予算のみではなく、役員全員の人的補助も検討し、事業活動の活発化をさらに行いたい。より良い企画を立案するには、多くの意見を取り入れる事が必須の条件であり、会員の皆様のご協力が是非とも必要だとあらためて感じている。